

水陸萬頃

第11号

奥州農業改良普及センター TEL: 0197-35-6741 FAX: 0197-35-6303
 いわてアグリベンチャーネット <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>



※水陸萬頃とは

「続日本書記」によると、胆江地域は「水と土地が豊かなところ＝水陸萬頃」と記されている。

『頑張る若手を紹介します』

新規就農者や新米農業者、若手農業者グループが奮闘する姿を紹介するコーナーです。

佐藤 健さん・紫帆さん(奥州市江刺)「トマトで生きる 仲間とともに」

佐藤健さんは、生涯情熱を注ぐことができる仕事をしたいとの思いを実現させるため、東京での会社勤めから実家がある江刺にUターンし農業の道を選びました。

踏み出すまでには不安がありましたが、近所の農業農村指導士のアドバイスや同年代の農家からの就農体験を聞き、関係機関との就農相談を経て就農を決意。ベテラン農家の下で、1年間みっちりトマト栽培のノウハウを学び、平成30年に就農しました。

就農初年度は、中古ハウス2棟を譲り受けて移設するところからのスタートでしたが、指導士による親身なサポートを受けながら、10㎡あたり12トンを目標を上回る収穫量を達成。小規模ながらも自信と手応えを感じたとのこと。

以降、自身の課題をひとつひとつ解決しながら着実に結果を出し、5年目となる今年度はトマトハウス12棟、面積33㎡とJA江刺トマト専門部の中でもトップクラスの経営規模となっています。

昨年には、紫帆さんというパートナーに恵まれ、よき理解者、よき相談相手として、「些細なことでもお互いに話をする事で前に進む力が湧いてくる・・・」

「自身の経営はまだまだ発展の途上。規模も内容(質)もさらに充実していきたい。メイン品目のトマトはもちろん、秋冬期のねぎなども拡大したい」と言葉に力を込める健さん。

「指導士やベテラン農家によるサポートが充実し、同世代の仲間と共に学び競い合える環境があり、すごく恵まれていることに感謝!」とも。

仲間と共に地域を元気に!という目標に向かって着実に歩を進める 佐藤健さん、紫帆さん。

何とも頼もしい‘花の30代’です。



～「金色の風」のブランドイメージ向上の取組～

『金色の風サポートチーム（栽培研究会・JA・県）』では、ブランドイメージの向上に取り組んでいます。今年度は、7月に奥州市を会場に3JA(岩手ふるさと・江刺・いわて平泉)合同の現地研修会、9月は首都圏米穀専門店を招いた産地ツアーを一関市で、収穫前現地指導会をJA岩手ふるさと管内4カ所で行い、産地での「品質の向上」と消費地での「魅力の向上」に向けた取り組みを行いました。

また、「金色の風」のプレミアムブランドとして、ふるい目2.0mm調製で厳選した『金色の風～雅～』を米穀専門店限定で販売し、さらなるイメージアップに努めています。



3JA合同の現地研修会



JA岩手ふるさと収穫前現地指導会



2mm調製品ラベル

御意見番！指導士の声



全国イベント参加者編

農業農村農業士
岩渕孝幸さん



10月に鹿児島で開催された全国和牛能力共進会に岩手県団長として、第6区種牛の部に出場し、4位に入賞しました。

我が家で生まれた「結乃宝」が県の種雄牛となり、その娘牛を出品したとても思い入れの強い大会。この2年間、県南育種組合の仲間とともに、牛の飼養管理や調教練習に励みました。常勝県との差はわずか、長距離輸送対策がうまくいき、想定以上のベストコンディションで臨めたことや、若手の成長などは大きな収穫。一方、次回へ向けた課題も見えました。

5年後の北海道大会に向け、チーム県南、チーム岩手で心新たにに取り組んでいきます。応援ありがとうございました！



8月29～30日に北海道洞爺湖町で開催された東北・北海道地域農業士研究会に参加しました。

北海道胆振地区は規模が大きく、機械化が進んでいます。自己の経営と並行して後継者育成に取り組んでいること、常に最先端技術にアンテナを張って経営に活用していること、基本技術がしっかりあるうえでの応用技術がすばらしく、何もかもが勉強になりました。

来年はお隣青森県での開催だそうです。指導士の皆さん、次回は一緒に参加しましょう！



青年農業士
佐藤祐太さん



11～12月の作物ワンポイントアドバイス

🍷 水稲 [令和5年産の稲作は今年の稲刈り後から]

- ★春先の乾土効果を十分発揮できるように溝切り等の排水対策を行いましょう。
- ★移植後の「湧き」が起きる場合は出来るだけ早い時期にワラをすき込みましょう。すき込時に「鶏ふん100kg/10㍎」や「石灰窒素20kg/10㍎」施用でワラの腐熟が促進されます。
- ★クログワイ・シズイなどの多年生雑草は乾燥や低温に弱いので、プラウ反転耕などで秋耕起（耕起深10～15cmが目安）をしましょう。

🌱 大豆 [適期刈取、汚損粒の防止]

- ★裂莢やしわ粒を防ぐため、収穫適期になり次第、速やかに収穫しましょう！
 - 収穫適期：10月中下旬～11月中旬 適時間：10時～17時
 - コンバイン収穫の適期：茎水分が50%以下（分枝がポキッと折れる）。子実水分は18%以下。
- ★汚損粒の発生原因をなくしましょう！
 - 作業前の雑草・青立ち株の抜き取り。
 - 刈り高10 cm以上厳守（土を入れないように！）。
 - 異品種混入を防ぐためにも定期的なコンバインの清掃。



🍎 野菜 [来年に向けた土づくり]

- ★翌年の病害虫発生源にならないよう、栽培終了後の作物残さは持ち出し処分し、資材消毒を実施しましょう。
- ★安定生産に向けた土づくりを実践しましょう。
 - 生物性の改善：堆肥施用、残さの片付け等。
 - 化学性の改善：土壌診断による適正な施肥管理、pHの矯正等。
 - 物理性の改善：深耕、排水対策、高畝等の実施。
- ★土壌診断を積極的に行いましょう。



🍎 果樹 [晩生種の収穫と収穫後の管理]

- ★「ふじ」等の晩生種は、収穫時期が遅くなるほど低温による樹上凍結の恐れが高まります。適期に収穫できるよう、計画的に作業を進めましょう。
- ★3～4年生の若木など、凍寒害の発生が心配される園地では、収穫作業後できるだけ早く、地際部から高さ50cm程度までホワイトンパウダーや白色の水性ペンキを塗布するか、わらを巻くなどして、被害の軽減を図りましょう。

🌸 花き [りんどうの秋じまい管理と小ぎくの親株管理]

- ★りんどう：気温が下がり、茎が枯れたら刈払いを行います。茎が確実に枯れていれば刃物は使用可能ですが、茎にみずみずしさが残る場合は、ウイルス伝染の可能性があるため控えましょう。刈り払った茎葉は必ず焼却処分とし、病害虫の越冬源を絶ちましょう！
- ★小ぎく：翌年の挿し穂採取のため、親株を秋から冬にハウスに移植します。ウイルスやウイルスロイドに感染した株を持ち込まないよう、よく観察しておきましょう。



🐄 畜産 [牧草の刈取り危険帯に注意！]

- ★刈取り危険帯は、一般的に牧草の生育停止（平均気温が5℃になる頃）の30～40日前（平均気温が15℃）と言われています。
- ★この時期に刈取りや施肥を行うと、牧草が再生を始めてしまい、養分を十分蓄えられないまま越冬するため、翌春1番草の再生・収量に悪影響を及ぼします。
- ★昨年は10月12日～11月21日が刈取り危険帯でしたので参考にしてください。



土壌診断による適切な施肥で、 順調な生育の確保と肥料費を削減しましょう！



土壌養分の過不足があると、基準通りの施肥では生育や収量が不足する場合や、反対に過剰施肥では病害虫の発生助長や品質低下を招く場合があります。

土壌診断による適切な施肥が重要で、さらに無駄な施肥を抑え肥料コストの低減にも繋がります。

- 土壌診断は、各成分の分析結果をもとにリン酸や、石灰、苦土、カリ他の量、バランスで診断します。ただし、結果が出るまで数カ月かかるため、計画的に、早めに土壌サンプルの提出をお願いします。
- 土壌診断は、JAの品目毎の収集日程があれば合わせて提出するか、JAの各作目担当、または、普及センターの各作目担当へご相談ください。
- リン酸とカリについては、過剰が通常施肥で良いかの判断のみの簡単な診断であれば、簡易土壌分析により診断できます。過剰が心配な場合は、普及センターの各作目担当にお問い合わせ下さい。



農作業事故防止を徹底しましょう



9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間です。日没が早いので、農業機械だけでなく、衣服等にも夜光反射材を取付けて車から気づかれやすくしましょう。農業機械の転倒・転落事故から体を守るため、トラクターには必ず安全フレームを装着し、運転者はシートベルトの着用を徹底しましょう。

胆江地方ニューファーマー大募集！

胆江地方農林業振興協議会では、主要品目（ピーマン、きゅうり、トマト、りんどう、りんご、水稻、肉用牛、酪農）で新たに就農を希望する方を募集し、「胆江地方ニューファーマー」として重点的に応援します。お近くに就農を考えている方がいましたら、是非普及センターまでお知らせください！

就農相談窓口の日

【時期・期間】

☆毎月第2木曜日（①13:30～、②15:00～）

【内容】

☆就農に向けた相談や情報収集したい方に対して、関係機関の担当者が相談に応じます。

【申込み方法】

☆相談日の3日前までに、事務局（普及センター）にお申込み下さい。

新規就農者向けの研修会等の情報をお知らせするため、今年度に就農した方の情報も集めています。

お近くで就農した方など情報がありましたら、教えて頂けると幸いです。



明子の部屋 ～佐藤所長のつぶやき～

所長の佐藤明子です。コロナ禍の明るい話題を御紹介します。それは、昨年度から継続して就農を希望する方の相談が増加傾向にあることです。

一人でも多くの就農につなげたいと、今年度から奥州市・金ヶ崎町の移住コーディネーターと連携し、県外から就農を目指す方への対応を始めました。このことにより、住居等の相談にも対応できるようになりました。

また、県では、「いわてお試し移住体験」として県営住宅への低廉な家賃でのお試し入居事業も行っています。戸数に限りがありますが、お気軽に御相談下さい（明子）。